

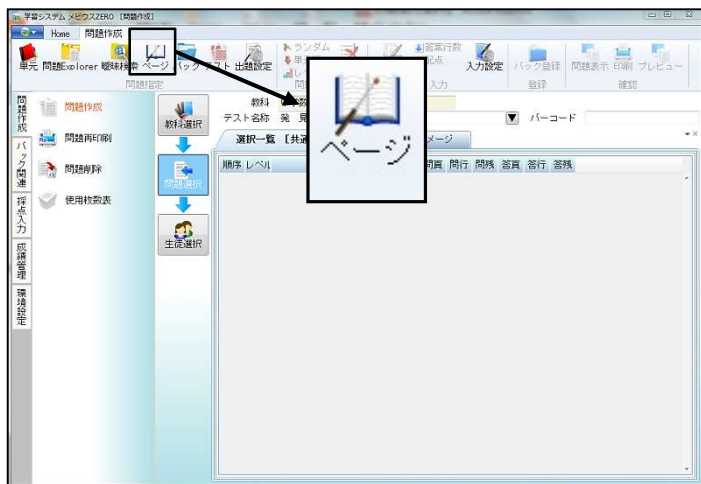
問題指定「ページ」における【1要素1問選択】

要素とは？・・・

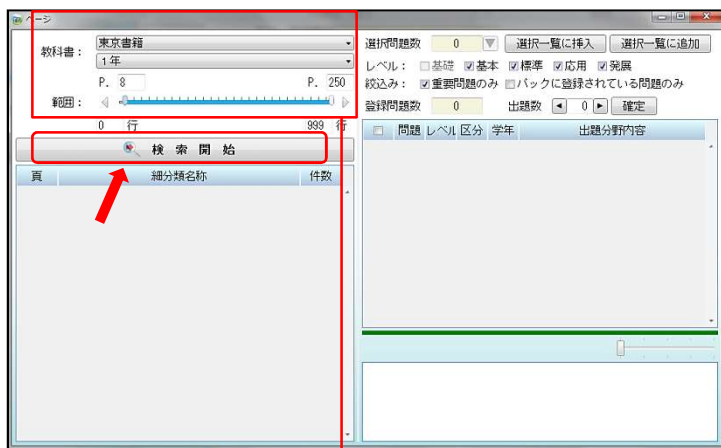
☞ Answer その問題を解く為に必ず習得しなければならない学習内容の事です。

例えば、 $2 \times 3 = 6$ は、 \times (掛け算) を理解できていないと問題を解くことは出来ません。

この \times (掛け算) が、その問題の要素となります。



「問題作成」画面より【ページ】をクリックして下さい。



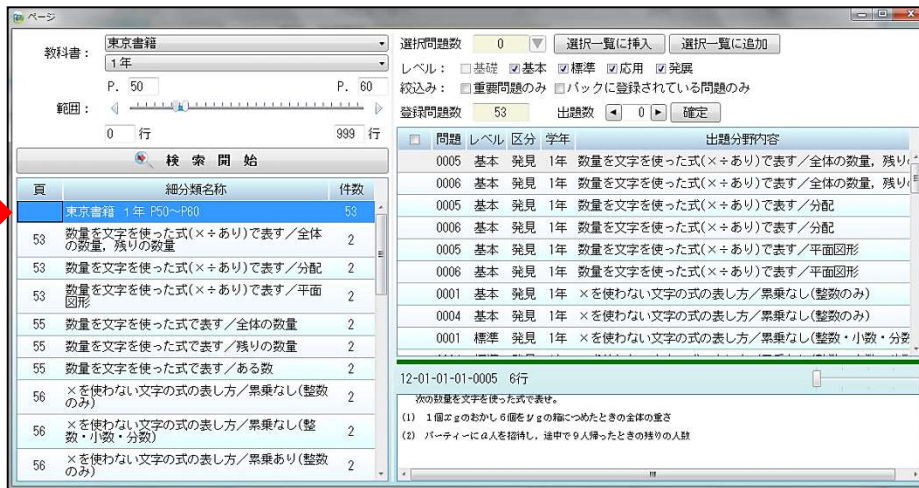
『教科書』『学年』『範囲』を選択して下さい。

※行数の指定が必要な場合は、行数を入力して下さい。

選択が完了しましたら『検索開始』をクリックして下さい。

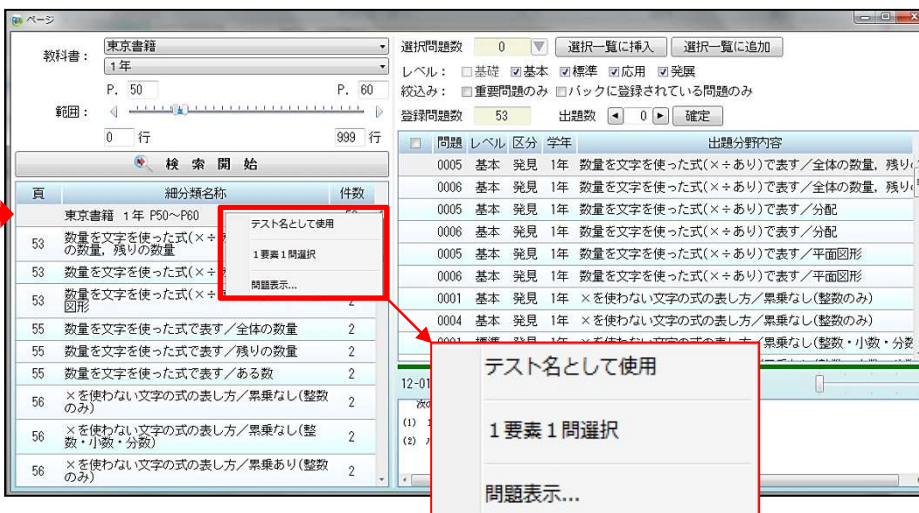


仮に、左図のように「東京書籍」「1年」で範囲を「P. 50～P. 60」にしたとします。



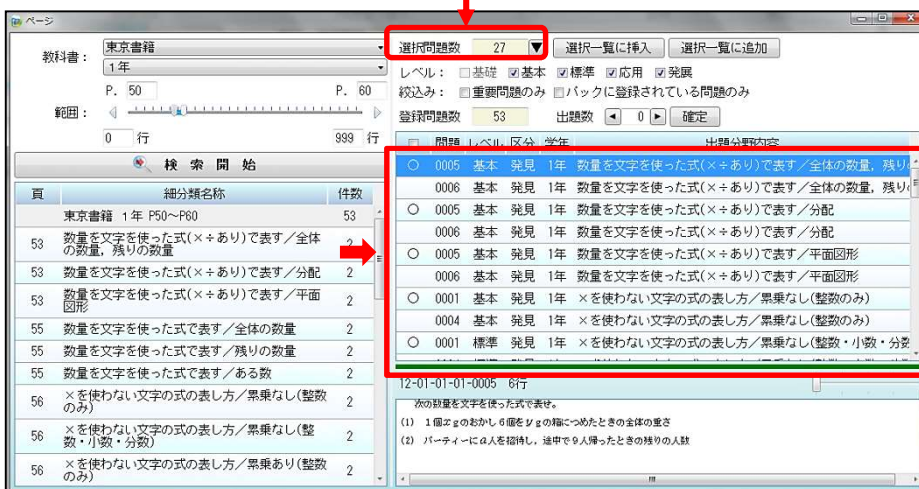
左図の赤い矢印が示しているところに範囲指定したページ内に登録されている問題数を表示しています。

「東京書籍」「1年」「P.50~P.60」で検索開始をクリックしたところ「件数(登録されている問題数)」が『53』と表示されました。



左図の赤い矢印が示しているところで「東京書籍 1年P.50~P.60」右クリックすると『1要素1問選択』というコマンドが表示されます。

この『1要素1問選択』をクリックすると…



『53』の問題で、各要素から1問ずつ自動で選択しますので、同じ要素を含む問題は出題されません。

左図では、検索して抽出された問題53問の中で、【1要素1問選択】によって『選択問題数』が「27」となっています。